



Advance

令和3年5月27日
尾道市立高西中学校
研究推進部

先日は第1回の校内研究授業、本当にお疲れさまでした。研究授業を行っていただいた小坂先生・能島先生をはじめ、皆様のご協力のおかげで、「わかる」「できる」授業の達成に向けて、多くの学びがあり、有意義な時間となりました。今回は以下の2点の気づきがあったと思います。

ICTの活用の目的を考えてみること

今回の研究授業の一番の成果は、ICTの活用に果敢に挑戦してくださったことだと思います。お二人の授業に、ICT活用の可能性を多く見つけることができました。また、ICT活用の効果について、深く考えることにもつながりました。探求的な学習に対して、ICTは①「事象の整理・分析」「意見の共有」のためのツールとして大きな役割を果たせることが実感できました。その一方で、②「知識の習得のための調査」には効果的だが、③使用するだけでは「発見・気づき」のある深い学びに結びつくわけではないということもわかってきました。なんのために、ICTを活用するのかを考え、より有効な使用法を選択することが今後の課題であるといえます。

協働学習の意図を明確にし、発問を考えてみること

また、学びを深める協働学習にするためには、発問もカギになることが実感できました。

協働学習を仕組む意図によって発問も変わってきます。3つに整理してみます。

(1) 調査した「知識」を伝えあう協働学習^知

発問の例 四大文明について、それぞれ分担して調べ、発表しよう。

(2) 「知識」を結び付けたり、比較したりして考察・判断したことを伝えあう協働学習^思

発問の例 源頼朝と平清盛の政治を比べ、なぜ頼朝の政治はうまくいったのか、考えたことを発表しよう。

聖徳太子の政策から共通点を見つけ、彼がどんな政治を目指したのか、考えたことを発表しよう。

(3) 「知識」を使って、自分の立場を明確にし（自分の生活と結びつけ）多様な考えを伝えあう協働学習^{主・思}

発問の例 日本は原発を動かすべきかどうか、発電について学んだことをもとに考え、発表しよう。

はじめの段階として(1)の協働学習も必要ですが、学びを深めていくには、さらに(2)⇒(3)の協働学習を行っていく必要があると感じました。

このように、協働学習の目的を明確にして、発問を設定することが大切だと思います。

	成果	課題と改善策
必然性のある課題設定	<ul style="list-style-type: none"> ・「手作り電池の作成」という課題設定で目的意識をもたせた。 ・課題に対する予測⇒検証 への意欲 ・生徒の活動を動画にした。 ⇒これまでの学びが生きた自覚。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ意義を明確にする。 ⇒課題設定の理由付けをする。 (なぜ手作り電池をつくるのか。) ⇒本質的な問いにも通じる。
学びを深める協働学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT(動画, スプレッドシート, ジャムボード)の積極的活用 ⇒事象の整理, 意見の共有に効果的であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一つ一つの活動・思考を区切り, 段階的に答えに迫る。 ・発問を明確にする ⇒どのように答えればよいか視点を与える。 ⇒スモールステップで答えにたどり着く。 ・「発見」のある思考活動を設定する。 ⇒根拠となる資料を準備し, そこから答えを見いだす。
学びをつなげる振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用(アンケート) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの生活に学んだことがどのように生きるか問いかけてから, 振り返りを書かせる。

	成果	課題と改善策
必然性のある課題設定	<ul style="list-style-type: none"> ・「中学生に必要な栄養素」という, 自身の生活に結びつけることのできる課題であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあて(この授業でどこを目指しているのか)がぶれないようにする。
学びを深める協働学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用 ⇒知識を集めるための調査に効果的であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共有した意見を分類したり, 重要なポイントを意識させたりする。⇒ホワイトボードに色線や枠を用いる。 ・調査した知識を使って考えを深めたり, 自分の意見を持ち, 話し合ったりする場を設定する。
学びをつなげる振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの振り返りに「もっと知りたいこと」などの視点を入れ込んでいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査から生まれた新たな疑問を全体で共有できたら, 次回の学びにつながる。

校長先生のあいさつより

① 「本質的な問い」にこだわる

何度も問い直されるような, その教科を学ぶ意義につながる「本質的な問い」を設定することが生徒の学ぶ必然性につながります。その際, 教科/領域の「見方・考え方」を働かせて, 答えにたどり着こうとする課程が重要です。この一年間で「本質的な問い」の設定が明確にできるように研究を積み重ねていきましょう。

② 「“知らない大人”に自分のことをわかりやすく表現する力」を生徒に身につけさせる

高校受験の方法も変わり, 初めて会った面接官に, 自分のことを理解してもらふスキルが必要とされます。これは社会に出ても必要なスキルです。単なる「発表」にとどまらず, 計画性をもち, 相手の立場に立ってよりわかりやすく伝える「プレゼン」の意識を持った教育活動を, 総合的な学習の時間や特別活動, 各教科の授業の中に仕組んでいきましょう。

